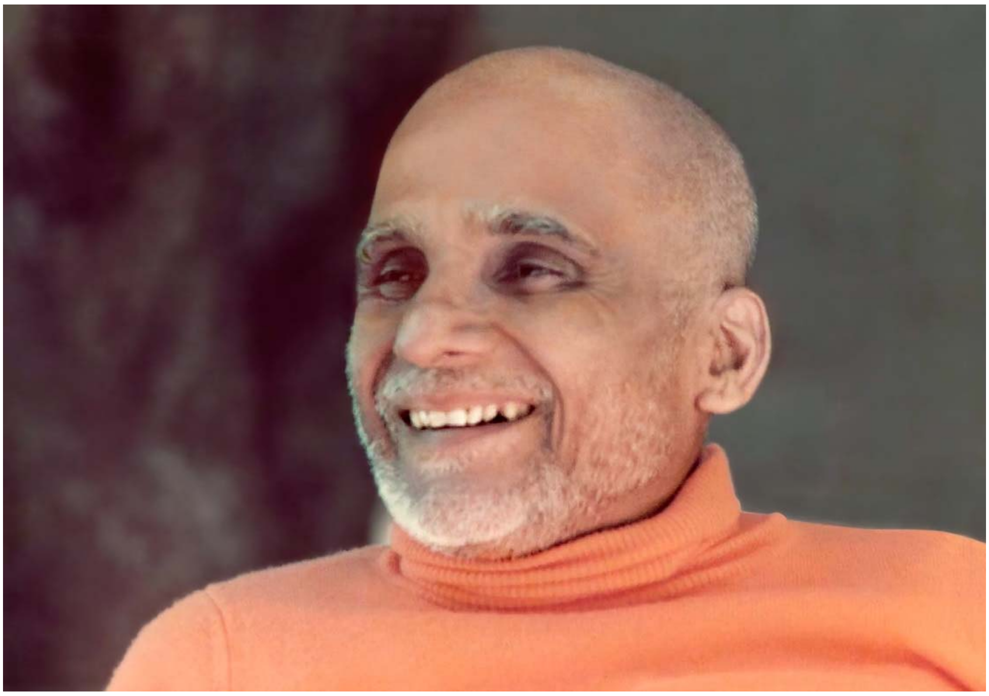
解脱のために生きる

Existing for Moksha

2023/04/25 版



スワミ・クリシュナナンダ 著

The Divine Life Society

Sivananda Ashram, Rishikesh, India

ウェブサイト： http://www.swami-krishnananda.org

他の和訳： https://yogajbooks.wordpress.com/

(1995 年 11 月 28 日のダルシャン)

訪問者（出家者）：人類のために奉仕したいのです。

スワミジ：なぜ奉仕したいのだね。

訪問者：奉仕することが私の習慣です。

スワミジ：人はモークシャ（解脱・魂の解放）以外の目的のために存在することはできない。奉仕のために存在していると考えるのは、人生の意義を大きく誤解していることになる。なぜあなたは、この世界に存在しなければならないのか。存在しなくてもよいではないか。存在する目的は何なのか。存在しなくなることもできる。人間はみな一人で生まれ、一人で死ぬ。誰も一緒には来てくれない。どんなに大切な人たちも、一瞬にしてあなたを見捨てることになる。あなたにとって大切な人は、あなたでしかない。しかし、神が慈しむのは、あなたがこの世界でしたことではなく、あなた自身だ。神の前のあなた、それだけに意味があるのであり、他の人があなたのことをどう考えているかは無意味だ。あなたは政治家のように間違った考えをしている。政治家には政治家特有の考え方がある。政治家は世界を良くしよう、ダムや病院を作ろうというようなことを言うが、これらのことを成し遂げても、やがては消え去るだけだ。

至高の存在（かみ）に到達しない限りあなたは人間ではない。単に無意味な存在だ。あなたの人生は不幸であり、茶番でしかない。特にサニャシン（俗世を放棄した僧侶）であるわれわれは、不必要な活動に心を奪われてはならない。サニャシンは、人々に霊的な価値の優位性を示す模範なのだ。あなたの顔が神々しく輝き、太陽のごとく、あなた自身の存在が教えとなるのだ。神があなたに満足すれば、全世界があなたに満足する。

神の偉大さを広めることだけがあなたの務めであり、それを怠れば、その他のすべてが無意味なものとなる。あなたは灰と化すだけだ。今話しているのは皆のためになることであり、そうでなければ、次の選挙のために活動する政治家のような存在になる。そして大臣になってダムなどを作るようになるのだ。これが私たちの義務ではない。最終的には意味がないことだ。ダムを作ることはできる。なぜ政府はダムを作るのか。ダムや橋を建設するのは素晴らしいことだが、それが私たち（サニャシン）の本分ではない。人々を啓蒙することが私たちの務めであり、商売などをすることではない。それは私たち（サニャシン）の義務ではないのだ。

訪問者：仰るとおりです。スワミジの教えを乞います。

スワミジ：あなたが心から切望していれば、神が祝福してくださる。しかし、心から求めていなくてはならない。「間違いを犯してしまった。神は来ないかもしれない」といった疑念を持っていてはいけない。疑念があると神は来ない。あなたは聖者、賢人でなければいけない。あなたの存在そのものが光なのだ。あなたがどこへ行こうとも、あなた自身の人格によって光が照らされるのだ。

人のために何かをするなと言っているのではない。奉仕をするのは良いが、自己の霊性を犠牲にしてはならない。実際のところ、この世界に友などいないのだ。友がいると勘違いしてはいけない。いつ友人に見捨てられても不思議はない。親族であっても時が来れば去ってゆくのだ。あなたから何か得るものがある間は友達であっても、何も得られるものがなくなると、あなたを去ってゆく。最終的に人はあなたを利用しようとしているのだ。

自分ができることで人の役に立つことは悪いことではないが、本当に求めているものは別のところにあらねばならない。そして、すべてを失ってもあなたの価値は変わらない。あなたの価値は所有物に左右されない。あなた自身の本質があなたの価値を決めるのだ。すべてを失い、身をまとう布さえ失ってしまったとしても、あなたの偉大さに変わりはない。そのようにならねばならない。そのためには深い瞑想と信念が必要であり、あなたの心（ハート）が神を求めていなくてはならない。

奉仕することがモークシャ（解脱）よりも重要だと考えるのなら、それはモークシャについて正しく理解していないことになる。単なる言葉でしかないのだ。モークシャを求めていないと言うなら、それはあなたが人生の意味を理解していないということになる。モークシャの理解には全く異なる教育が必要とされるため、モークシャを理解するのは容易なことではない。思考の完全なる転換が必要とされる。通常の思考は単に機械的なものでしかない。超越的ではないため、一時的には使えても、やがて破綻する。偉大な師の指導、偉大な魂、聖者とのサットサンガが必要だ。求めるべきは偉大な魂、聖者とのサットサンガであり、病院を建設すること等ではない。病院を建設しても何にもならない。病院はそこら中にある。世界は病院だらけなのに、病院を一つ増やしてどうなるのだね？あなたの自我は満足するかもしれないが、あなたの魂は満足しない。

あなたは霊の道を歩むサニャシン（僧侶）であり、人々を悟りに導く指導者だから言っているのだ。どこにいていようとも光を照らす、それがあなたの義務だ。

スワミジ：[別の訪問者に] なんだね？心にあることを言いなさい。

訪問者：ひとつお聞きしたいことがあります。五年前にもダルシャンを受けましたが、その時スワミジは「インドで何をしているのだね」と聞かれました。私は「もっと内側に神を探したい」と答えました。しかし、スワミジは「外に神を探しなさい」と言われました。予期しない答えでしたが、お言葉を書き留め、心に刻みました。そして努力しましたが、成功しませんでした。

スワミジ：何に成功したいと考えているのだね？

訪問者：スワミジは神を外に探しなさいと言われました。私はそのお言葉を書き留めました。すべての人や物の中に神を見出さなければいけなかったのですから、お言葉のとおりだったのです。

スワミジ：人々が外にいるために、神があらゆる場所、あらゆる物の中に在るという概念は、外を指しているように思えるのだ。あなたは、ここにいる人たちが、自分の中にいると感じるかね、それとも外にいると感じるかね？どうだね？

訪問者：私の外に見えますが、私の中にもいるとも感じます。

スワミジ：よろしい。世界が外にあると考えるのであれば、神は外にいるように見える。しかし、もし世界が自分の外に在るのではないと感じるのであれば、神は外に存在しえないし、また内にも存在しえない。神は遍在するということを受け入れると、内や外という考えは消え去るからだ。この点が分るかな。それを実践しなさい。

別の訪問者：夫は私の祈り方や神の信仰を受け入れてくれないので、夫の中に神を見出したいです。

スワミジ：なぜここに連れてこなかったのだね。

訪問者：一緒にインドに来たくないと言うのです。

スワミジ：インドが嫌いなのかね。

訪問者：はい。

スワミジ：何が好きなのかね？

訪問者：ヨーロッパにいることです。

スワミジ：ご主人はなにを信じているのだね？何かを信じているはずだ。

訪問者：強い信念を内に持っていると思いますが、夫は厳しいカトリックの教育を受けています。

スワミジ：カトリック教育の何が問題なのだね？

訪問者：問題はありませんが、夫は…

スワミジ：ご主人が伝統的なカトリック教徒だと言いたいのかな。それはそれで良いではないかね。何を気にしているのだね。

訪問者：夫は幼少期にカトリックの教育を受けたのですが、それを嫌い、今は神やその他すべてを否定しています。

スワミジ：キリスト教も否定しているのかね。

訪問者：はい。

スワミジ：では今は何を信じているのだね？何かを否定したなら、別の何かを受け入れているはずだ。

訪問者：夫はとても社交的な性格で、私が神を信じることで、私が夫から離れていくと思っているのです。私がインドに来て自分の霊性を見つけて、インドにい続けることを心配しているのです。私が離れていくのではないかと。

スワミジ：あなたがいつも神のことを考えていることを、ご主人はどうして知っているのだね。

訪問者：瞑想をしますから。

スワミジ：瞑想するとき、身振りや素振りで非社交的な態度をとっているのかね？それとも普段と変わりない様子なのかね？

私は今あなたと普通に話をしている。周りには人がいるが、私は神を瞑想している。そして、普段と変わりなくしている。皆と話しているので、誰も私が神を瞑想していることを知らない。神を瞑想することに熟練すれば、誰もあなたが神を瞑想していることを知られないのだ。

— OM —